

令和7年度第1回 沼田市中小企業・小規模企業振興会議 会議概要

- 1 日 時 令和7年6月18日（水）午前10時～11時
- 2 場 所 テラス沼田5階 第2委員会室
- 3 出席者 須田恭弘委員、近藤義晶委員、中林寿緒委員、土谷裕樹委員、小菅伸一委員、藤井隆委員、小菅隆夫委員、劔持三千代委員、藤垣強委員、田邊一樹委員、田中栄一委員、中嶋久美委員（事務局：産業振興課長、産業振興係長、商工振興係長、企業誘致推進室長）

4 内 容

【1 委嘱状交付】

市長から須田委員に代表交付。その他の委員については机上交付

【2 市長あいさつ】

本日は、大変お忙しい中にもかかわらず、「沼田市中小企業・小規模企業振興会議」にご出席いただきありがとうございます。

皆様におかれましては、平素より、市政の発展にご理解ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

中小企業・小規模企業振興会議につきましては、令和4年に施行いたしました中小企業・小規模企業振興基本条例に基づいて設置をしており、企業や関係機関等の皆様が、それぞれの役割や取組を共有し、意見交換を行っていただくことで、効果的な振興施策を推進していくことを目的としております。地域経済や雇用を支えていただいている中小企業・小規模企業の振興なくして沼田市の振興はないと常々思っておりますので、この会議には、大いに期待をしているところでございます。

委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただき、本市の中小企業・小規模企業の振興に向けてのご協力をお願い申し上げて、ご挨拶にかえさせていただきます。

【3 開会】 進行：産業振興課長

【4 自己紹介】 名簿掲載順に自己紹介

【5 会長の互選及び職務代理の指名について】

―須田恭弘委員が互選により会長に決定

―職務代理については、条例第15条第3項の規定により、会長が指名。近藤義晶委員が職務代理に決定

○会長あいさつ

会長ということで、皆様にお世話になります。ご迷惑をお掛けするかもしれませんが、一生懸命やりますのでよろしくお願いします。

○職務代理あいさつ

不慣れではございますが、よろしくお願いいたします。

【6 議事】条例第16条第1項の規定に基づき、会長進行

(1) 沼田市中心小企業・小規模企業振興施策について

- －【資料1】から【資料4】について事務局説明－
- －質疑等なし－

(2) 意見交換

○ハローワークは市と連携し、高校生のための企業ガイダンスとか、子育て世帯の就職面接会を開催している。今年度も、引き続き市と連携して行っていきたい。他にも障害者の関係も含めて、取り組んでいきたい。ハローワークが絡んで、できることがあれば、気軽にお声掛けをしていただきたい。

○この会議の形式を市から問題の提起またはテーマを設定して、それについて、討論する形式にするのがよいのではないか。

○人口減少に伴い、廃業する方もいる。新規に事業を始める方もいるが事業所数、従業員数が減ってきている。働く方がいないと、特に製造業は生産が追いつかなくなる。海外の方に労働力として入っていただくということもある。メディアにおいて、市町村で応援をして、海外の方を地域に呼ぶために保険制度や住宅手当などを支給し、人を集めているということを目にした。いろんな振興施策があるが、そういったものをフレキシブルに利用して、この予算だから、これに特化してということではなくて、いろいろなところで還元することをやっていただき、いかにこの地域が盛り上がるか、人でいっぱいになるか、そういう地域にできれば、みんなも希望を持ってこの地域で仕事を続けられるのではないか。

○青年会議所で今年運動のテーマとして、利根沼田、帰ってきたい町ということで帰ってきってもらうためにはどうしたらよいかということ話を合っている。沼田に魅力がないとか、どこで遊んでいいかわからない。魅力的な企業が少ないと言われるが、魅力的な企業は少なければ、作ってあげればいいことだし、そういう話を意見としてまとめてはいる。沼田市の現状を見ると人が足りないと言われる。減る原因が何なのかということを知解ければと思う。高齢化が進んでいるというのも分かるが、若い人も帰ってきていると思う。移住者も増えている中で、この現状が何に起因するのかもう少し詳しく分かると嬉しい。

○今のこの会議自体が最終的に、提案できるような委員会、会議になるといいと思う。企業の方と話す、資料のとおり、従業員が少ない。仕事はあるが、人がいなくて仕事を受けられないなど労働力不足が見受けられる。外国人労働者を受け入れて、企業は回っているという話もあったので、今後、労働力をどうしていく

のかという議論ができたらと思う。高校生の地元定着なども含めて、それに対応できるような施策を市と協力しながら提案できたらと考える。

○事業所の減少、従業員数の減少という中で、後継者不足ということがあり、事業承継がうまくいってないという大きな課題があると思う。今、少子高齢化とか人口減少が進む中で、事業者の親族内の承継がうまくいかず、減少しているという状況があると思う。地域の小規模事業者は雇用の創出とか、住民生活に必要なインフラの確保とか、いろんなサービスを提供していただいている中で、これまで培ってきたいろんなノウハウや技術を持っている。そういう方たちがいなくなってしまうのは大変残念なことなので、何とか残していければと考えている。市では群馬県の実業承継センター及び商工会議所と連携して、相談窓口を作っていると思うが、今後は持続化のほか、情報発信もしっかりとして、新しい施策の検討なども、進めていただければありがたい。

○人口減少は、事業所数の減少という部分へ多く影響してくると思う。金融機関が担うことは、資金調達及び事業承継の円滑化を図ることと、創業の促進を図ることだと思う。また、安心して働くことができる労働環境の整備というところで、子育てを支援する職場作りと、人口減少がどの市町村においても、課題かと思う。そういったことに予算を付け、取り組みを強化していただけると、事業所数の増加につながっていくかと考える。そういったことの周知をしっかりと取り組まればと思う。

○学生に沼田に残ってほしいという気持ちが非常に強い。市内にはどんな職業があって、どんな仕事をしているのか、いろんな企業が沼田にもあるが、企業が直接学生に職業紹介とか、利根沼田の高校生一人一人にこういう仕事があるとか、マッチングの場があるといい。職業フェアの開催を希望する。沼田にもたくさん頑張っている企業がある。沼田の良い産業、伝統的な産業もたくさんあるので、そういうものに触れたり、実際にその企業の方とお話ができたりするようなフェアをもっとたくさん開いていただけるといいと思う。

○若者達が集う場所が、あまりないと思う。沼田女子高校跡地が統合で空いておりますので、ああいう建物で何か得意なことを発表、展示、それから交流ができたり、企業がそこでオフィスを開いたりできる場所を設けていただけると、沼田の活性化になると思う。

○事業者の相談を受けていると、大きく二つに集約される。一つは、価格転嫁や賃上げをどうやったらいいかということ。もう一つは、人手不足。沼田市ということではなく、日本において 2040 年問題ということがあり、2040 年には労働供給不足が 1,100 万人にも膨れ上がってしまうとのこと。人からロボットへという国の施策もあるが、人が足りないなら、ロボットを使えばという考えはどうかと思う。社員が働きやすいのは当然のこと。これからは働きがい、やりがいが求められてくる。

そのような中から社員から色々な発案が出たり、人が集まったりするのだと思う。加えて、辞めないようにする施策が非常に大事になってくるのではと。他から取ろうとしないでやめさせないようにするという施策が求められてくるとい感じます。

○ここ 20 年ぐらい市民税の税収額は、ほぼ横ばいで減っていなかった。人口が減っているのに、なぜ税収が下がらないのか、女性の社会進出が増えてきたことと、定年になってもやめない人が増えてきたことにより、従業者数が減らずに、納税額としては横ばいであったと推測する。女性の社会進出もいずれは限界に達する。徐々にその兆候が現れたのかと感じている。そうすると市外から人を連れてくるか、という話になるが、自治体間で奪い合いになって、なかなかそういうわけにもいかない。最終的には外国の方を入れるというような形になってくるのではと思う。

○資料 3 に地域経済循環図があるが、これを見ると 600 億くらい市から(お金が)出ていってしまっている。非常にもったいない状況。これがどういうことによるのかということが分かるようになると、このもったいない状況が改善されるのかなと思った。

○市の限られた財政予算の中ではダイナミックな変革は実際無理だと思う。その中で市の規模に見合った施策を着実に実行していただきたい。大型店が地域の中心になっている。商圈が変わってしまい、吉岡とか高崎にお客さんが実際流れているので、行政がもっと打って出て、民間企業とタイアップして、利根沼田の広域圏をもっと充実していただきたい。

○人口の問題が出ているが、あまり数字にとらわれても仕方ない。田舎であれば、例えば自分で食べる大根作ったり、ネギを作ったりして食べていける。人口が減ることはもう日本国全体で、沼田だけではないと思う。目線を変えて、例えば幸福度など、人口が減っても自分たちは幸せだという、そういうものを皆さんで考えた方がいいと思う。

○最近ではガソリンスタンドの減少が群馬県内では非常に激しいと言われている。以前は沼田でタバコを買おうとか、お酒を買おうとかいう話がありましたが、最近では、喫煙者が減少したせいか市内でタバコを買いましょうという運動もないような気がする。市内で物を買って、それを還元し、市の財政の方に回すような、もう少し細かい草の根の財政、草の根広報活動、これをしていけばいいかと思う。

○先日前橋の方と会いましたら、沼田市が大正ロマンの町で、売り出しているとおっしゃっていた。一つの施設に確か 100 円ぐらいで入れる。施設に入って、ご飯を食べるとかあるので、あれだけいい施設を移設したのですから、大正ロマンの街としてももう少し活性化を考えていきたい。まず、市民が行かないと盛り上がらないので、皆さんで盛り上げていきたい。

○生活の中でいろんな社会の変化というのを感じる中で、本当に大変な人もたくさん

んいると思う。抽象的ですが、皆さんの意見を聞いて、具体的にどうしていけばいいのかを考えていければ、と考えている。

○人口減少っていうのが一番最近気になる。先日の新聞で、去年に生まれたのが 68 万人だと。70 万人を切ったのは初だということであった。会社に若い人がポツポツと入る。やめないが、なかなか仕事を覚えるのに時間がかかる。そこへいくと年配の人は、60 歳を過ぎても 70 歳を過ぎてもまだまだ働ける。高齢者を大事にすることによって、会社はまだまだ大丈夫かと思う。外国人を使うとか、いろんな話があるけれども、言葉の問題等もある。やはりコミュニケーションは大事。市でもフォローして、高齢者を雇うと会社には利益が出るのではなく、本人に利益があるような、そういうシステムでしていただきたいと考える。若い人にとっても、沼田市に就職を 5 年間すれば市民税が免除とか、極端な話ですけど、魅力がないと、なかなか就職で沼田に残ってくれる人が少ないのではないかと。

○企業誘致においても、この状況から採用するには人を連れてこなければ。他の会社の人間をとられてしまうだけ。そうであると既存の会社が細々となってしまうので、できれば、沼田に来る企業の本店で採用してもらって、他の地域から沼田に来てもらうような形が取れれば。人口が増えるような、企業誘致をしてもらいたい。

○お年寄りは大変に、長く仕事を一生懸命してもらって、責任を持たせ、働きがいをつけてということが、一番大事なことです。若い人にいろいろ求めてしまうと、なかなか人がいないことが現実なので、沼田市に若い人が残れるような、本人に利益があるような。会社の利益ではなく、本人に直接利益があるような。こういった仕組みにしてくれると、もっと活気がでてくるのではないかと。

(3) その他

―事務局からの事務連絡―

※次回開催は、10 月の予定

【4 閉会】